

光西寺だより 第44号

海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「報恩講」

光西寺副住職

田中 咀釈

このたび十月二十七日(土)・二十八日(日)と光西寺におきまして報恩講が勤まります。金子みすゞさんがお作りになられた『報恩講』という詩がありますのでご紹介します。

「報恩講」

「お番」の晩は雪のころ、雪はなくても闇のころ。くらしい夜みちをお寺へつけば、とても大きな蠟燭と、とても大きなお火鉢で、明るい、明るい、あたたかい。大人はしつとりお話で、子供は騒いじゃ叱られる。だけど、明るくにぎやかで、友だちやみんなよって、なにかしないじゃいられない。更けてお家にかへつても、なにかうれしい、ねられない。「お番」の晩は夜なかでも、からころ足駄の音がする。

この金子みすゞさんの生誕の地、山口県長門市というところは、浄土真宗の教えが根付く、とてもご法義のあつい地域です。その地域の方言では、報恩講を「お番」と言うそうです。

報恩講には大人も子供もお寺に集まり、朝までみんなでご聴聞をされ、大きな火鉢とご法話に、大人は身も心もあたたかくなる。子供は、両親や祖父母に連れられて夜道を歩き、ワクワ

報恩講

◇ほうおんこう◇

家族そろって
お参りしましょう

クしながらお寺に着くと、いつもよりも大きなロウソクやたくさんの人を見て、はしゃいでは叱られている。大人も子供もそれぞれ心温まる嬉しさに、家に帰ってもなかなか眠れない。この詩は、なんだか懐かしさを感じる詩です。報恩講は、私達が心安らぐ温かいみ仏の教えをみんなで聴き、みんなで慶びあう、仲間の集いです。そして、お一人お一人がその教えに照らされて、自分自身の姿をもう一度省みる行事でもあるのです。

蓮如上人は御文章というお手紙の中で、「報恩講には、みなさんそれぞれが、親鸞聖人の御影の前で、普段の愚かな行いを悔い改め、自分自身を見つめ直してください。それこそが、報恩講の本当の意味であり、すなわち聖人のご恩に報ずるといふことなのです」と、おっしゃいました。

普段は愚痴ばかりでる愚かな私が、まさに救われていく身であったことを気付き、慶びの中にお念仏を申す身にさせていただくのが報恩講のご法縁なのです。

報恩講にお参りし一緒に念仏申しましょう。



※正信念仏偈の意味を知ろう

正信…如来の言葉を信じる
(絶対に救う)

念仏偈…嬉しい時も悲しい時も
も唱える讃歌

*正信偈は親鸞聖人の著作であり、浄土真宗の立教のいわれを著わした「教行信証」の「行の巻」の最後に書かれているものです。

○真宗教証興片州

真実の宗教たる真宗を、日本の国におこし(興片州…こうへんしゅう)

○選択本願弘悪世

選択本願(第十八願)を、悪世のこの世にひろめられた

○還来生死輪転家

生死輪転(しょうじりんでん)の迷いの世界からぬけられず、とどまっているのは

○決以疑情為所止

本願の教えをうたがひ(疑情…ぎじょう)、信受(しんじゆ)しないからであり

○速入寂静無為楽

すみやかにさどりの世界(寂静無為の楽〓都)に入るには(続きは次号にて)



報恩講法要のお知らせ

日時 十月二十七日(土) 一時半より

二十八日(日) 一時半より

講師 奈良県田原本町

本願寺派布教使・満誓寺副住職

竹林 真悟 師

*報恩講は「宗祖」親鸞聖人への「恩を報ずる講(つどい)」です。是非どなた様もお参り下さい

*尚、田原本町の満誓寺さんは以前(平成二十四年三月まで)法務員として三年間光西寺に勤めて頂いた故竹林和範師の自坊です。彼が四十三歳で往生された後、満誓寺後継者として入寺されたのが今回ご法縁を頂く竹林真悟師であります。深いご縁を感じます。



本願寺津村別院へ



十月四日に本願寺津村別院へお参りさせて頂きました。島根県西福寺・平野区光西寺・茨木市明照寺・三力寺合同の離郷門信徒の集いを開催。親睦交流を深めるご法縁になりました。ご参加ありがとうございました。

*住職の知人、日高勝明様の記事が本願寺出版社発行の「大乘」に掲載されましたのでご紹介します。

親鸞さまに逢いたい!

日高勝明 (島根県邑南町)

私たち夫婦は、娘夫婦や孫たちに会いたいと思ひ、栃木県小山市を訪ねました。

娘夫婦にその希望を話すと「じゃあこの足で、今から向かいましょう!」と言ってくれました。私は内心小躍りする心をおさえて、茨城県の笠間に向かいました。

そうです、私が何としても訪ねたかったのは、笠間市の稲田で、親鸞さまに逢いに行くことでした。「稲田御坊西念寺」という聖人ゆかりの古刹があることは、かねてから知っていました。で、私たちがとつて最後のご縁と、車窓の筑波山を眺めながら心がはずんでおりました。ほどなく木漏れ日の向こうに、写真で見覚えのある茅葺きの個性的な山門が私たち4人を温かく迎えてくれました。

権力者による念仏弾圧によって、親鸞

聖人は越後に流され、苦難と闘いながらその後関東に教線をひろげてゆかれ、落ち着かれた先が笠間の稲田でした。ここでの聖人最大の仕事は、主著『教行信証』のご執筆でした。生涯にわたり師・法然聖人を信頼し続けた親鸞聖人は、「今日から私は浄土真宗を開宗する。私が宗師だ」などと独立宣言はされませんでした。この『教行信証』のみ教えによつて、私たちは「宗祖」「ご開山」と仰がせていただくことができるようになりました。そのご執筆の地こそが西念寺なのです。

ご本堂は威風堂々として、正しくゆかりの地にふさわしいはずまいでした。坊守さまにご挨拶することができましたが、こちらのご住職が島根県浜田市のご出身であることを聞きし、より一層親しみを感じました。そんなことは何もわからず参拝しました。そんなに、こんなご縁がいただけようとは! まさしく聖人のお招きのおかげでしょう。「遠い石州門徒の地から、よう参つてくれた。如来さまの救いをよろこべよ!」

やさしい親鸞聖人のお声が心の奥にまで届く思いでした。八〇〇年の時を経てここで聖人にお逢いできた喜びを妻と共に味わったことでした。



念珠・編み方講習会

九月九日に仏婦の例会があり、念珠の編み方の講習会がありました。京都より若林仏具製作所のスタッフが2名も来てくださりご指導くださいました。



法話と茶話会の開催日

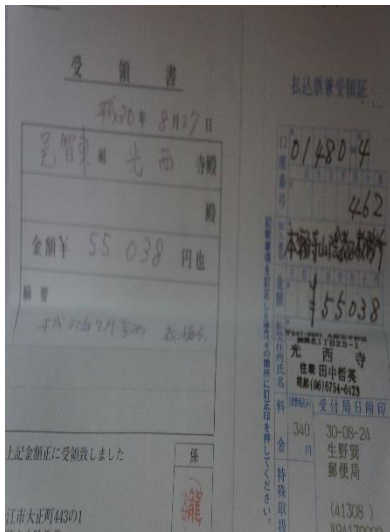
仏様のお話しを中心に、日頃のあれこれをお茶や茶菓子をつまみながらお喋りする会です。どなた様もお待ちしております。

十二月 七日(金)

午後二時〜

西日本豪雨災害義援金御礼

このたび皆様より進納いただいた西日本豪雨災害義援金総額五万五千三十八円(内訳光西寺一万円・献灯の集い二万円・募金箱二万五千三十八円)納めさせていただきました。ご協力誠に有難うございました。



自己紹介

四月より光西寺様でお参りをさせていただいています山本大輔と申します。既に顔を憶えて下さっている方、またこれからお会いさせて頂いたたく皆様、どうぞ宜しくお願いします。

私の紹介をさせていただきます。私は姫路市出身で今年二十七歳になります。体を動かすことが好きで、日頃からスポーツジムに通っています。小学校で野球を始め、中、高校と野球をし今は草野球。ちなみにポジションはキャッチャーです。また、車やバイクのレースが大好きで幼い頃からアイルトン・セナに憧れ、F1レーサーになりたいという目標がありました。お寺に生まれたのではなく、一般の家庭に育ちました。高校卒業後クレーンやトレーラー運転手の仕事に従事していましたが、二六歳の時に僧侶になろうと決意し京都の龍谷大学へ。そんな私の僧侶スタイルは「丁寧に、わかりやすく伝える」です。門徒様と同じ目線に立ち、易しく仏教をお伝えするというのが一番にあります。僧侶になったから皆さんともお会いできまた大阪へも来れました。また光西寺の住職様や副住職様にも助けていただきました。不思議なご縁を通して、多くの方に支えられ育てられていることに感謝をし、驕らず怠けず、また無理をせず、毎日を歩ませさせていただきます。

